

タイトル： 日常生活の中にある暴力のカタチ～Invisible Bloody Hands～

ファシリテーター（グループ）： 英語チーム(Aチーム)

**1：本ワークショップの要旨**

私たちが普段何気なく買い使っているものは、一体誰が作っているのだろう。私たちの生活はもしかすると、同じ世界なのに恵まれない環境で働いている人を苦しめ、それを維持させているのかもしれない。

このワークショップでは私たちの生活から、このような目に見えない暴力と私たちがどのように関わっているのかを見つめなおし、そしてそれらの暴力に対してどのように向き合っていくのかを参加者と共に考えていきたい。ワークショップ後も考え続けてもらうことを目指す。

**2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)**

私たちが物を買う事で、その原料を作っている発展途上国では大人から子どもまでが低賃金で過酷な労働を強いられている。つまり、私たちは物を買うという何気ない行動で、知らぬ間に彼らを傷つけている。この目に見えない暴力をゲームで可視化して、自分達を含む様々な人がこの暴力に対してどのように関わっていくかを考えてもらいたい。WSを受けた後も考え続けてほしい。

**3：本トピックをとりあげる理由**

私たちがいる日本は平和と言えるのだろうか。確かに紛争や戦争はないものの、私たちが日常的に買う物には残酷な現実が隠されている。私たちが物を買う事で、一日中炎天下での労働、危険な刃物や機械を使う労働などを様々な人に強いている。つまり、私たちは間接的に彼らに暴力を振るう加害者でもあると考えられる。このような目に見えない暴力をどのように崩すのか考える。

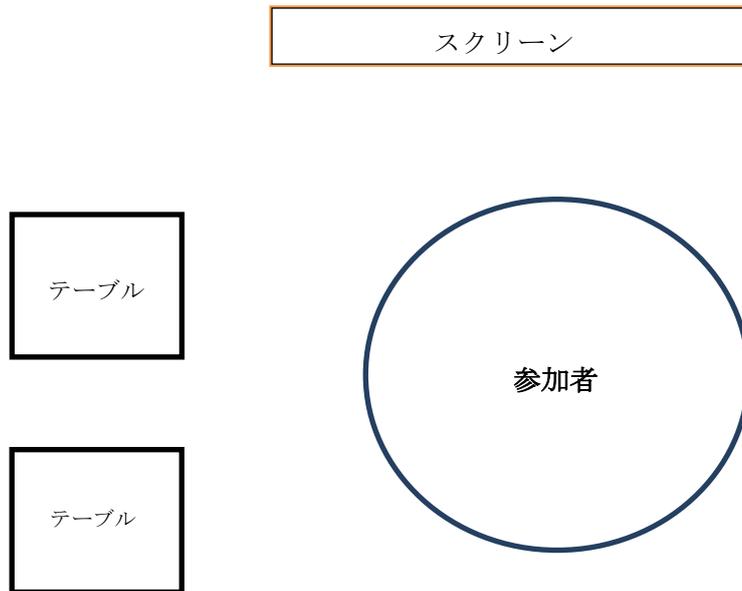
## 4 : 活動過程

(使用時間 : 85分 参加人数 : 30人)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する教材 ・備品	予想される反 応. その他, 注 意事項
導入 : 起 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>アイスブレイキング</li> <li>・タグゲーム (自分達の持ち物の生産国、原料をタグなどから見つける)</li> </ul>	<p>自己紹介</p> <p>4マス自己紹介 →紙を四マスに割って、名前+3つの質問(好きな科目、趣味、最近買った物など)を書いてもらう。</p> <p>自分の持ち物や服のタグを見てシートに原産国、原料を記入する。</p>	<p>参加者の緊張をほぐし、自由な話し合いができる雰囲気づくり。</p> <p>普段自分達の周りにあるものはどこで作られているのか、何で作られているかということに視点を向けるため。</p>	<p>紙 ペン</p> <p>ワークシート ペン</p>	<p>緊張をほぐす</p> <p>このゲームを通して、生産国は簡単に見つけることができるが、詳しい原料を誰が作っているのか分からないことに気づく。</p>
展開 : 承 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングゲーム(物を買う立場の消費者とその物を作る生産者を体験してもらう)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者には消費者と生産者に分かれてもらい、生産者は原料を作る(具体的には重い荷物の運搬と段ボールを切る作業など)。それを基に消費者には仮想のお金で好きな物を買ってもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが低価格な物を買うことで、過酷な労働を低賃金でさせられている。そのことに気づいてももらう。</li> </ul>	<p>ダンボール ハサミ 仮想のお金 労働体験グッズ (水入り2リットルペットボトル)</p>	<p>“消費者”が私たちであることに気づき、私たちの身の回りの物に、過酷な労働が隠されていることを見る。</p>

発展 : 転 ( 25 分)	・グループワーク (問い)  発表	・自分がゲーム内でどんなことをしていたかを話し合い、やってみた感想を言う。	2つの役の共有	大洋紙 ペン パワーポイント	ゲームで誰がどのようなことをしていたの知るか。
	休憩 5 分				
	・ゲームの解説	・ゲームの中で表わしていたものを説明し、参加者が何をしていたのか、事例を用いながら具体的に説明する。	ゲームの意味や消費者、生産者がどのようにして関わり合っているのか確認する。	パワーポイント	ゲームで表していた物を理解し、現実では誰がどのようなことをしているの知るか。
まとめ : 結 (25 分)	・グループワーク (この構造的暴力を壊す為に必要なこととはなに?)  発表  ・まとめ	・私たちが買っている物にこのような現状があることを知ったうえで、どのように構造的暴力と関わっていくのか考えてもらう。  この暴力の解決策を考えることが構造的暴力を崩す第一歩であることを知ってもらう。	このような構造的暴力に対して、誰に何ができるのか考えてもらう。  今まで行ってきたワークの目的を参加者に理解してもらう。	大洋紙 ペン	誰が何をすれば構造的暴力を崩せるのかイメージする。  今まで行ってきたワークの意味を理解してもらう。

## 5 : 会場のセッティング



## 6 : 使用する教材

ワークシート

ペン

ダンボール

ハサミ

仮想のお金

労働体験

(水入り2リットルペットボトル)

大洋紙

パワーポイント

## 7 : 参考にした資料

ヨハン・ガルトゥング (1991/12)「構造的暴力と平和」(中央大学現代政治学双書)

スーザン・ジョージ (1984/6)「なぜ世界の半分は飢えるのか」(朝日選書)

Anti Slavery

<http://www.antislavery.org/english/>

Save the children

[http://www.savechildren.or.jp/contribute/lp/2015donation\\_5.html?gclid=CNDL0ouNgscCFYUGvAod\\_RQA1w](http://www.savechildren.or.jp/contribute/lp/2015donation_5.html?gclid=CNDL0ouNgscCFYUGvAod_RQA1w)

外務省国際人事機関センター

[http://www.mofa-irc.go.jp/link/kikan\\_ilo.html](http://www.mofa-irc.go.jp/link/kikan_ilo.html)

## 8 : その他